

令和6年度 徳島県立脇町高等学校 学校評価 総括評価表

重点目標	課題	評価指標と活動計画	実施状況	評価	総合評価	学校関係者の意見	次年度への課題
1 学校と家庭が連携を深め、主体的に学習する態度と確かな学力をもった生徒を育成する。	(1) 指導方法の工夫・改善	評価指標	1 「授業力向上に、授業公開・参観授業を役立てることができた」教職員の肯定的評価90%以上	教員の肯定的評価は85.4%(+5.9)であり、概ね目標を達成できた。	B	B	学校評価について、アンケートの数値的にクリアしているところについても、否定的な回答をしているのはなぜかなどのデータを取ることも大事である。
			2 「指導方法や内容の精選、観点別学習状況評価の内容や教材の共有などについて、教科内での連携を密に行っている」教職員の肯定的評価90%以上	教員の肯定的評価は92.7%(+3.2)であり、目標を達成できた。			
		活動計画	1 授業研究週間を年2回(各2週間)設けるとともに、協働的問題解決型の授業公開を全教職員が行う。	授業研究週間内において346の授業が公開されており、ほとんどの教職員が協働的問題解決学習を実践することができた。また、教員アンケートにおいて95%の教員が協働的問題解決型の授業の効果を実感している。			
			2 各教科で教科会や授業担当者打ち合わせを適宜開催し、学習指導方法や評価の工夫や改善について検討する。	教科会を定期的に行うことはできなかったが、各教科で授業進度や評価基準の確認、考査問題の吟味を通して、指導法および評価方法の工夫や改善を行った。			
	(2) 計画性や目的意識を持った学習習慣や態度の育成	評価指標	1 「週末課題や確認テストに意欲的に取り組んだ」生徒の肯定的評価80%以上 「定期考査に向けて計画的に学習に取り組んだ」生徒の肯定的評価75%以上	週末課題に関する肯定的評価82.7%、定期考査に関する肯定的評価78.3%であり、いずれも目標を達成できた。	C	C	授業研究週間やICTの活用、研修を行うなど教職員の授業改善に取り組む意欲は非常に高い。 日々の学習の先にある実力テストや校外模試に向けての生徒の主体的で計画的な取組は不十分であると言えるが、昨年より約5%上昇している。
			2 「実力テスト・校外模試に向けて自分の目標が設定できている」生徒の肯定的評価75%以上	「実力テスト・校外模試に向けて自分の目標が設定できている」生徒の肯定的評価73.1%。進学室前の掲示板に試験予定を提示するとともに、具体的な目標を立てるよう指導を実施してきた。			
		活動計画	1 シラバスや手帳、面談、集会などを効果的に活用し、計画的な学習スタイルを確立させる。	手帳を活用した学習スケジュール管理や各教科・学年での学習方法ガイダンスなどを通して、生徒への啓発を行ってきた。また、長期休業以外にも各学年ごとに個別面談を実施し、意識の高揚を図った。			
			2 進学室前の掲示板に試験予定を提示するとともに、具体的な目標を立てるよう指導する。	進学室前の掲示板は、毎日チェックし、試験情報を掲示した。試験予定だけでなく、各種コンテストや入試情報等の新着状況も随時更新していった。			
	(3) 家庭学習の充実	評価指標	1 全生徒の年間平均家庭学習時間2.8時間以上 1年生2.7時間以上、2年生2.8時間以上、3年生3.5時間以上	全生徒の年間平均家庭学習時間2.8時間。1年生2.12時間、2年生2.44時間、3年生3.76時間。家庭学習時間調査に向けて、自宅学習の必要性を説明したり、個人面談で学力向上に向けて時間をかけることの大切さを説いたりしてきた。脇高手帳や集中学習時間の活用も行った。	C	C	家庭学習時間は、全体としては目標を達成している。3年生は昨年より0.5時間増加しており、1・2年生は昨年とほぼ同数である。 学習時間が1時間に満たないのは勉強習慣がないということであるので、こまめに単語テストを行うなど今週何をすべきかがわかる状態にすることが効果的であると思う。
			2 家庭学習時間調査において、学習時間が1時間未満の生徒の割合を、4%以下にする。	3年に助けられたが1年の低下が著しい。家庭学習時間調査において、学習時間が1時間未満の生徒の割合9%			
		活動計画	1 家庭学習時間調査を通して、家庭における学習状況を把握し、指導に活用することで学習習慣を確立させる。	学習時間が1時間未満の生徒の割合9%から、家庭学習時間調査を通して、家庭における学習状況を把握し、指導に活用することで学習習慣を確立させることはできなかったといえる。			
			2 HR・学年集会等を利用して学習の意義や具体的な学習方法について指導し、授業内容の振り返りの重要性を理解させる。	HR・学年集会等を利用して学習の意義や具体的な学習方法について指導し、授業内容の振り返りの重要性を理解させるといったことは繰り返し行ってきた。			
(4) 興味・関心を高める教育	評価指標	1 「生徒の興味関心を高める教材の研究や授業の工夫・改善を積極的に行った」教職員の肯定的評価90%以上 「興味・関心を持って授業に意欲的に取り組んだ」生徒の肯定的評価80%以上	教員の肯定的評価は97.6%(+10.4)であり、今年度は高いレベルで目標値を達成できた。また、生徒の肯定的評価は89.3%(+3.1)であり、目標値を達成できた。	A	A	教職員の授業改善等に加え、SSH等での多様な学びの場の提供により、生徒の評価は非常に高い。 ホームページは熱心に更新されているので、楽しみにしている方も多し。	
		2 「SSH事業の各種活動に参加してよかった」生徒の肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価は85.0%で目標を上回った。				
	活動計画	1 文献や書物に接する機会を増やし、話題に富んだ授業を行うなど、生徒の興味・関心を高める工夫がなされた、わかりやすい授業を行う。	SW-ingや課題研究の活動を通して、生徒が文献や書物、公文書等に接する機会を積極的に設定した。それぞれの教員が工夫を重ねた授業実践を行った。				
		2 魅力あるSSH事業を展開し、未知の事柄への興味(知的好奇心)を向上させる。	肯定的評価76.7%となり、様々なSSH事業が有機的につながったと考えられる。				
(5) 家庭との連携	評価指標	1 PTA総会の保護者参加者数の割合35%以上 学年進路保護者会の参加者数の割合、各学年75%以上	PTA総会の保護者参加者数の割合は34.1%、学年進路保護者会の参加者数の割合は、1年83.6%、2年66.7%、3年77.5%だった。	B	B	総会の参加者数の割合は目標を少し下回った。学年進路保護者会についても2年生で目標を下回った。 ホームページの更新回数は計画より少なくなったが、情報公開のタイミングや頻度を改善して肯定的評価は改善した。	
		2 「ホームページは、学校の活動状況などを理解するのに役立つ」保護者の肯定的評価70%以上	「ホームページは、学校の活動状況などを理解するのに役立つ」保護者の肯定的評価78.2%(昨年度71.4%)で目標を上回った。				
	活動計画	1 PTA総会や脇高祭バザー等のPTA活動への積極的な参加を促す。また、ホームページ等を利用した広報活動を充実させる。	脇高祭バザーの参加者数は今年度も30名を超える参加があり、実施後のアンケートでも今後の継続した取組に期待する声が多い。ホームページでの広報活動についてはほとんどできていない。				
		2 ホームページの更新を年間200回以上実施する。	ホームページの更新は1/17現在、172回の更新であった。				

【備考】「評価」及び「総合評価」の評定の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった

2	高い志を持ち、目標の実現に向けて努力し、将来、社会のリーダーとして活躍しうる生徒を育成する。	(1)	望ましい職業観・早期の進路意識の育成	評価指標	1	「小論文・講演会・SSHの諸活動などを脇高手帳に記録し、進路意識を高めるよう努力した」生徒の肯定的評価70%以上 「授業やホームルーム活動を通して、生徒の進路意識の向上に努めた」教員の肯定的評価90%以上	「小論文・講演会・SSHの諸活動などを脇高手帳に記録し、進路意識を高めるよう努力した」生徒の肯定的評価59.6% 「授業やホームルーム活動を通して、生徒の進路意識の向上に努めた」教員の肯定的評価83.4%	C	B	脇高ポイントを活性化させるため、ポイント取得上位者に、表彰だけでなく何か賞品があってもいいのでは。	○探究活動に対して積極的に取り組んでいる生徒と付け焼刃でその場しのぎの生徒との差が大きい。小論文等も2年生に全員提出を求めているが、期限を守れない、記名できない、指示された型通りにできないなどの、基本的な部分への課題が目立つ。	
					2	「SSH活動は大学進学後の志望分野探しに役立った」生徒の肯定的評価70%以上	肯定的評価は65.9%で目標を下回った。今年度は特に講演会は文理関係のない内容であったが、進路との繋がりを考えさせる機会が少なかったためと考える。					
				活動計画	1	小論文・探究活動・講演会・SW-ingプランの活動に積極的かつ意欲的に取り組ませるとともに、進路を考える機会となるよう指導する。授業やホームルーム活動の中で、生徒の進路意識を向上させるよう働きかける。	脇高ポイントを活用するよう促すと共に、総合型や推薦入試等でも活動実績が必要になることをその都度説明し、「志望理由書・小論文・面接ノート」も全生徒に配布することで計画性を持たせるようにした。					
					2	SSH活動への参加を将来の志望分野探しに役立たせる。	サイエンスカフェの回数を増やし、SSH生徒研究発表会や研究所見学ツアーなどを実施した。					
		(2)	個々の希望や適性に応じた多様な進路指導	評価指標	1	「先生は面談等を通じて、進路についてよく指導してくれる」生徒の肯定的評価85%以上 「教員は個人面談などを通して、個々の生徒に応じた丁寧な進路指導をしている」保護者の肯定的評価85%以上	「先生は面談等を通じて、進路についてよく指導してくれる」生徒の肯定的評価93.3% 「教員は個人面談などを通して、個々の生徒に応じた丁寧な進路指導をしている」保護者の肯定的評価90%	A	A	講演や面接時には脇高手帳に大切なことを書き込むなど、有効に利用している生徒が増加している。 「道標」の活用とSSHへの取組が志望分野探しに役立っている。	美馬市は子どもの数が減少している。学区制の撤廃により徳島市内への流失も懸念される。こうした中でも、地域の拠点校としてこれまでのような位置づけでいてほしいと思っている。	○積極的に活動する生徒と何も情報を得ようとしない生徒との乖離がある。面談をしても自分の考えに固執して現実が見られない、客観化できない生徒も増えている。保護者も現実と自分の理想との差をうめようとせず、理想を子どもに押し付けようとして板挟みになって苦しむ生徒もいる。
					2	「『道標』をはじめとする各種の進路情報は充実している」生徒・保護者の肯定的評価80%以上	「『道標』をはじめとする各種の進路情報は充実している」生徒79.6%・保護者の肯定的評価91.9%					
				活動計画	1	定期的な個別面談や三者面談を実施するなど、きめ細やかな進路指導を行う。	面談は随時行われた。担任だけではなく、学年も超えて相談している姿がある。					
					2	高大接続改革の情報を含め、必要な進路情報を生徒・保護者に分かりやすく提供するとともに、『道標』や進路保護者会の内容を充実させる。	高大接続、大学、就職など進路情報を随時提供するとともに、できるだけ外部と接触するよう呼び掛けた。					
		(3)	生徒保護者が希望する進路目標の達成	評価指標	1	生徒・保護者から希望の高い国公立大学への合格者数が、在籍生徒数の50%以上	生徒・保護者から希望の高い国公立大学への合格者数が116名となり、在籍生徒数の72.5%以上で目標を達成した。	A	A	進学実績については学校全体で協力的に取り組めており成果が出ている。	社会に貢献することを目標に掲げているので、リーダーとなる生徒を育ててほしいと強く思う。	○学力を上げることで志望先に到達できるような指導が基本だが、多様化する入試で突然問題が変更されるなどの対応もできるようにありとあらゆる準備をしなければならぬ時代になっている。土台となる基礎学力の定着が最優先であるのはいうまでもない。 ○今後さらに生徒、保護者に向けて両立の重要性や価値を学校全体で発信していくことが必要である。また、両立方法についても具体的な方策を生徒や保護者に提示していかなければならない。
					2	「部活動顧問は、生徒の学習状況を考慮してバランスのとれた活動時間を設定している」生徒・保護者の肯定的評価80%以上	肯定的評価は生徒83.2%、保護者82.8%であった。					
				活動計画	1	日常の取組を学習成績に反映させ、丁寧な進路指導を行うことで個々の進路実現に結びつける。	今後さらに生徒、保護者に向けて両立の重要性や価値を学校全体で発信していくことが必要である。また、両立方法についても具体的な方策を生徒や保護者に提示していかなければならない。					
					2	学習と課外活動とのバランスを取りながら、生徒の自己実現に向けた指導を行う。	顧問はよく配慮している。今後さらに生徒保護者に向けて、重要性や価値を学校全体で発信していくことが必要である。					
		(4)	将来、社会において活躍しうる脇高生の育成	評価指標	1	「学校祭や球技大会などの学校行事には、積極的に・主体的に取り組んでいる」生徒の肯定的評価85%以上	肯定的評価は96.0%であった。	A	A	生徒会や実行委員が中心となり「皆のために働く」を掲げ、学校行事にこれまでの経験を生かしつつ積極的に取り組むことができた。 朝のあいさつ運動は生徒主体にして、交通指導と併せて実施できた。	○生徒会や実行委員を中心に部活動生とも協力しながら活動することができた。次年度はこの経験をもとにさらにブラッシュアップさせたい。 ○身だしなみやあいさつに関しては、ある程度、生徒の意識は向上している。しかし、交通マナーや公共の場でのマナーについて、昨年より減少したが各所から苦情が寄せられており課題となっている。	
					2	「服装・言葉遣い・時間厳守を心がけた生活をしている」生徒の肯定的評価90%以上	肯定的評価は95.4%で目標を上回った。					
				活動計画	1	学校祭や球技大会などの学校行事を、生徒主体で積極的に運営し、協働意識を高め、社会性を育てる。	生徒会執行部を中心に、また各行事で実行委員を募り生徒全体で積極的に運営に取り組んだ。					
2	身だしなみについて各クラス・各学年・学校全体で継続的な指導を行う。また、朝のあいさつ運動を毎月実施する。				継続的な指導を行った。朝のあいさつ運動も生徒会と協力し、毎月行うことができた。							
(5)	将来、社会に貢献しようとする人材の育成	評価指標	1	「ISO清掃活動など、各種ボランティア活動に積極的に参加している」生徒の肯定的評価65%以上	生徒の肯定的評価は66.7%であった。	A	A	探究活動等では地方自治体等との連携を深めて地域課題に取り組むことで社会貢献に対する意識の高まりが窺える。	○高校生としての成長や進路実現に向けて、ボランティア活動等社会貢献の意識が高まっている。特にJRC部や生徒会が中心となり、フィリピンの子どもたちへの支援物資の収集や募金活動に取り組むなど、生徒はもちろん保護者の方々にもご協力いただいたような活動も実施できた。今後ますます生徒全体や参加への意識を持てるような広報や啓発を行っていききたい。			
			2	「社会の課題解決に関する探究活動に積極的に取り組み、社会への関心が高まった」生徒の肯定的評価75%以上	肯定的評価は77.4%で目標を上回った。							
		活動計画	1	ボランティア活動への積極的な参加を呼びかけ、社会貢献への意識を高める。	各クラスでの掲示や生徒会からの呼びかけ等で啓発に努めた。JRC部も昨年度に引き続き、積極的に全校生徒が参加できる取組を考え実施した。							
			2	探究活動や成果の報告会などを通して生徒間の経験や知見を共有させ、社会への関心を高める。	地元企業や地方自治体など多様な主体と連携した課題研究に取り組み、全生徒が参加する成果発表会を実施し、地域の方や関係者からも参加いただいた。							

【備考】「評価」及び「総合評価」の評定の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった

(6)	グローバル化に対応できる人材の育成	評価指標	1	「GTECや英検の受検、ALTとの授業に主体的に取り組んだ」生徒の肯定的評価65%以上	生徒の肯定的評価は79.2%(+6.2)と目標値を上回り、英語外部検定試験への積極的な姿勢が見られた。	A	GTECを基本にほとんどの生徒が外部試験を受検しており、リスニングテストやスピーキングテストの実施と合わせて、英語4技能をバランス良く育成することができた。	○新しい指導要領のもと、よりコミュニケーションを意識した取組が進んだ。生徒が積極的に英語で表現する機会を増やすことによって、生徒が自らの課題に気づき、向上心やモチベーションを高めることができた。 ○パフォーマンステストは実施・評価とにもかなりの時間と労力が必要である。ICTをより積極的に活用し、できる限り効率化を図っていくことが課題である。 ○学校外の活動にも積極的に参加し、外国人や海外の文化に直接触れる機会を増やしたり、調べ学習をする中で世界の出来事に目を向け、国際的な視野を持つ人材育成をしたい。
			2	「国際社会の様々な問題に興味・関心を持ち、書籍・インターネット等を利用して調べている」生徒の肯定的評価が55%以上	生徒の肯定的評価は60.6%(+3.9%)で目標値を上回った。			
		活動計画	1	生徒の英語学習への意欲を高め、GTECや英検の受検をすすめる。国際理解教育の充実をはかり、コミュニケーション能力向上のためにリスニング、スピーキング、パフォーマンステストを取り入れる。	GTECは1・2年生の全員、英検については2級125名、準2級は46名が受検した。プレゼンテーションやディベート、インタビューテストなど、様々な形態のパフォーマンステストを充実させることにより、コミュニケーション力を伸ばすための取組ができた。またALTを活用することによって、活動の内容を深め効率を高めることができた。			
			2	書籍・インターネット等を活用し、異文化に関する知識と正しい認識を持たせるとともに、グローバル化に柔軟に対応できる能力を育成する。	教科書の単元に関連する内容や、プレゼンテーション学習において、インターネット等を活用して必要な情報を取り入れ、他者に伝えるよう努力できた。			

3	自己有用感や自己肯定感を育み、仲間と協働できる豊かな心を持ち、公共心と社会性を備えた、たくましい生徒を育成する。	(1)	環境美化・防災に対する意識の向上	評価指標	1	「清掃活動に積極的に取り組んでいる」生徒の肯定的評価85%以上	生徒の肯定的評価は92.8% (+1.5) と目標数値を上回ることができた。	A	A	重点目標3の評価が高いことから、先生方が親身になっている様子が見えてくる。 スマホについて、協高生はマナーを守って使用している生徒が多いが、生徒指導協議会でもSNSトラブルに加えて闇バイトの話がでてきた。危険な使い方について学べるような場を作ってもらえると、保護者としても安心できる。	○環境美化については、学校内外でゴミの分別や環境整備に今後とも取り組んでいきたい。また、学期に1回の学校近くの大谷川周辺の清掃活動も継続していきたい。 ○防災については、引き続き避難訓練やJアラートでの訓練を通して生徒に意識付けをしていき自ら行動できるようになってもらいたい。また、高校生防災士の受講生を確保して生徒たちが防災に対する知識を得ていざという時にリーダーとなって行動できるようになってもらいたい。	
				2	「防災訓練に、関心を持って積極的に参加している」生徒の肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価は84.6% (+2.5) と目標数値を上回ることができた。						
		活動計画	1	快適な環境で学習できるよう、清掃活動やゴミの分別に積極的に取り組ませる。	ゴミの分別は十分できており、教室内の環境整備にも努めている。また、各学年で学校周辺の清掃活動を行っている。	A	評価指標について、14項目中達成できたものが12項目、達成できなかったものが2項目であった。					
		2	高校生防災士を活用して、参加体験型訓練など体験を重視した活動を取り入れ、防災に対する関心を高め、家庭でも学校でも積極的に行動できるよう指導する。	避難訓練では避難経路の確認や防災に対する意識の向上に努めた。3月の防災訓練は参加体験型として、煙体験避難訓練や防災クラブ員がリーダーとなって消火訓練等を行う予定である。								
		(2)	集団や社会の一員として協力	評価指標	1	「ホームルーム活動や部活動を通して、自分自身が成長できていると感じる」生徒の肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価は92.4%であった。	A	関係機関と連携し、実施形態を工夫しながら避難訓練を実施し、防災意識の向上に努めており、成果がでている。			○協働的な雰囲気の中でホームルーム活動が行われている。集団への所属意識を高め、さらにその中で自分の果たす役割を常に考えさせ、生徒自身を成長させる活動を進めていきたい。
					2	「授業や小論文・講演会などを通じ、社会的問題を主体的に考える意識が高まった」生徒の肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価は83.4%(+2.9)となり、目標を達成できた。					
				活動計画	1	ホームルーム活動や部活動を通して、集団の中での役割や立場を理解し、仲間と協力して目標に向かって努力できる生徒を育成する。	協働的な雰囲気の中で、目標を持って活動に取り組めており、生徒の成長に繋がる機会となっている。					
					2	主権者教育年間計画表に従い、主権者意識を高めるための授業、ホームルーム活動、総合的な探究の時間、学校行事を実施する。	教科学習や探究活動において協働性を育んだ他、生徒会役員選挙を活用した模擬投票を実施したり、3年生の年金講座を通して、社会の一員としての自覚や主権者意識を高める取組を行った。					
		(3)	基本的生活習慣の育成、安全教育の推進	評価指標	1	「交通安全・交通マナーについて、日ごろから十分意識し、守っている」生徒の肯定的評価90%以上 交通事故等を昨年度より減少させる。	肯定的評価は96%で目標は上回ったが、交通事故は10件を超えて起きている。	B	交通安全・交通マナーに対する生徒の意識は高い。ヘルメットの着用率も1年生を中心に上昇している。しかし、地域からの苦情はなかなか減っていない現状がある。			○朝のHRや集会などを通して交通安全や交通マナーについて周知を徹底したが、自転車の通行マナーや公共の場におけるマナーに関して苦情が寄せられており課題がある。またヘルメットの着用率の向上も求められる。 ○携帯電話やスマートフォンをルールやマナーを意識して使用しているという生徒の割合は高い。しかし、依然としてSNSでのトラブルなどが発生しており、使用に関しては注意喚起を行っていく必要性がある。また、利用時間に関しても指導を行ってほしい。
					2	「携帯電話やスマートフォンは利用時間を意識している」生徒および保護者の肯定的評価80%以上 「携帯電話やスマートフォンはルール・マナーを意識して使用している」生徒および保護者の肯定的評価80%以上	利用時間に関しては目標を大きく下回ってしまった。ルール・マナーの意識については肯定的評価の目標は上回ったが、指導を要する場面が起ってしまった。					
				活動計画	1	バイクの安全運転実技講習会を開き、車体検査を行う。また、登校指導を毎月行うなど、交通安全教育を徹底する。	実施することができた。					
					2	個人面談や家庭及び関係機関との連携を行い、情報モラルを身につけさせるとともに、携帯電話やスマートフォンの利用時間やルール・マナーを意識して使用させる。	スマートフォン安全教室の実施や、集会時での声かけ等を積極的に行うことができた。					
		(4)	保健指導の充実	評価指標	1	「子どもは学校から発信された健康情報などを参考にして、自分の健康や生活に気をつけた生活をしている」保護者の肯定的評価70%以上 「掲示物などを通じて、時候や生徒の生活状況に応じた効果的な指導ができています」教職員の肯定的評価90%以上	保護者の肯定的評価74.9%、教職員の肯定的評価95.1%と目標数値を上回ることができた。	A	携帯電話やスマートフォンの利用方法についての意識は高い。しかし、利用時間に対する生徒の自覚を促すとともに、保護者の理解と協力を求めていく必要がある。 悩みや不安を抱えた生徒や保護者からの相談に誠実に対応し、スクールカウンセラーによるカウンセリングを定期的実施し、必要に応じて関係機関と連携できており、生徒・保護者の満足度も高い。			○生活習慣や食生活をはじめ、感染症対策も日常となり、健康情報に関しては生徒自身が行動判断するための正しい判断材料を提供していく必要がある。精神保健に関しても医師や保健師等専門家の講演会を企画する予定である。
					2	「緊急時に救急措置(AEDを含む)をすることができる」教職員100%	教職員の肯定的評価95.1%となり、緊急時対応研修に業務で参加できなかった職員がいたためと考えられる。					
				活動計画	1	時節や生徒の生活状況に応じて保健だよりを定期的・臨時的に発行するなど、効果的な保健指導を行う。	保健だよりは年間10回発行した。					
2	教職員に加え部活動生徒への救急法講習会を実施するなど、校内救急体制の充実に努める。救急法講習会(年1回実施)				教職員は学年団ごとに緊急時対応研修を実施し、生徒は普通救命講習会に24名の生徒が参加した。							
(5)	教育相談及び特別支援教育の充実	評価指標	1	「悩みや不安を親身に聞いてくれる先生や友だちがいる」生徒の肯定的評価90%以上 「先生は保護者や子どもの相談に誠実に対応してくれている」保護者肯定的評価85%以上 「自己理解調査や職員研修を活かし、学級や部活動などで生徒の居場所づくりに努めることができた」「悩みや不安などの困り感を抱えた生徒に対して、組織として迅速かつ臨機応変な対応ができるように努めた」教職員の肯定的評価90%以上	生徒の肯定的評価は92.6%、保護者の肯定的評価92.8%、「自己理解調査や職員研修を活かし、学級や部活動などで生徒の居場所づくりに努めることができた」の教員の肯定的評価は97.4%、「悩みや不安などの困り感を抱えた生徒に対して、組織として迅速かつ臨機応変な対応ができるように努めた」の教員の肯定的評価97.6%でほぼ目標を達成することができた。	A	○協高手帳や面談を通して生徒の状態を把握し、担任・学年・部活動顧問等で連携しながら生徒の悩みに迅速に対応していく。 ○『スクールカウンセラー便り』が確実に家庭に届くように工夫し、生徒だけでなく保護者もカウンセリングを利用しやすい環境作りに努めたい。 ○親子のコミュニケーションが十分にとれておらず、悩みや不安の原因を把握するのに時間を要したり、家庭の協力が難しいケースが増えている。担任や学年団だけでなく、関係機関とも連携しながら早期に対応していくことが課題である。					
			2	「生徒が安心して過ごせる教室や部活動の環境整備、授業づくりの工夫ができた」教職員の肯定的評価90%以上	教員の肯定的評価は97.6%で目標を達成することができた。							
		活動計画	1	悩みや不安など、様々な困り感を抱えていながらも言い出せない生徒がいることを常に意識し、生徒が相談しやすい環境づくりと誠実な対応に努める。	人権教育課と連携し、特別支援教育についての職員研修を実施した。配慮を要する生徒が増えているなか、合理的配慮について具体的に学ぶことができる機会となった。							
			2	担任をはじめ教科担任や部活動顧問、関係機関とも連携し、生徒が安心して学校生活を送れるよう工夫し、組織として、迅速かつ臨機応変な対応に努める。	不登校や悩みのある生徒について、保護者と連携しスクールカウンセラーの利用や医療機関の受診を勧めるなど、関係機関とも連携できた。							

【備考】「評価」及び「総合評価」の評定の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった

4	(6)	人権教育の推進	評価指標	1	「人権問題について学んだことを、日常生活に活かそうとしている」生徒の肯定的評価85%以上 「子どもが学校で人権問題について学んだことを、家庭で話し合う機会がある」保護者の肯定的評価45%以上	生徒の肯定的評価は91.6%で、目標を達成することができた。保護者の肯定的評価については47.8%で目標を達成することができた。	A	人権学習ホームルーム活動に対する評価が非常に高く、日常生活において人権を尊重しようとする姿勢が見受けられる。「脇高人権の日」の運営についても、身近な人権問題をテーマに取り上げ生徒主体で行うことができた。	○生徒が人権問題についての学びを、日々の生活に反映させられるよう、生徒の身近な内容を取り上げたり、より一層家庭との連携を図る等の工夫をしたい。 ○「人権の日だから語る会」参加者数を増加させるために広報活動に努め、気軽に参加できる雰囲気作りに励みたい。家庭への広報活動についても、ホームページの内容をより充実させるなど工夫したい。 ○人権学習ホームルーム活動については、さらに多くの教員が指導に関われるように工夫していく。				
				2	「人権学習ホームルーム活動は充実している」生徒の肯定的評価85%以上 「すべての教育活動の中で、人権に配慮した指導ができている」教職員の肯定的評価95%以上	生徒の肯定的評価は91.8%で目標を達成することができた。教職員の肯定的評価は100%で高い評価となった。							
			活動計画	1	人権問題をより身近なものとして捉え、実践的態度につなげるために、人権委員が主体となり「脇高人権の日」のテーマ設定や資料づくりを行う。また、その日のテーマを家庭でも共有し、広がりある人権教育に結びつける。	「脇高人権の日」のテーマ設定や資料づくりを1・2年生の人権委員が1～2クラスずつで担当した。高校生の視点を取り入れたテーマで、主体的に資料作成に取り組む姿勢が見られた。「人権の日だから語る会」への人権委員・人権同好会「虹」の生徒以外の参加者は少なかった。							
				2	生徒の実態に合わせてホームルーム活動で扱うテーマを再構成するとともに、各学年で指導案や資料を十分に検討し、生徒の主体的な活動を積極的に取り入れる。また、多くの教員が指導に関われるように工夫する。これらの活動を柱に、すべての教育活動の中で人権に配慮した指導の実現を図る。	人権ホームルーム活動の指導案や資料の準備に関して、各学年の担当者を中心に十分に検討して進めることができた。全15クラスで副担任がホームルーム活動を行う機会を持つなど、多くの教員が指導に関わることができた。							
		(7)	感性豊かで、調和のとれた人間性の育成	評価指標	1	「修学旅行・文化祭などの学校行事を通して、芸術や文化活動に積極的に取り組んだ」生徒の肯定的評価80%以上				生徒の肯定的評価は96.6%であった。	B	修学旅行は計画通り実施することができた。文化祭は保護者への公開を実施することができ、生徒の活躍する場を広めることができた。ミライ文化祭の開催も決定しており芸術や文化に触れる機会を提供できた。	○芸術や文化活動をする機会は回復してきている。今後どんな状況下においても、創意工夫し積極的な取組ができるようにしていきたい。 ○本や新聞等を読んで、自己と社会の関わりについて考える姿勢を養うことの重要性について、今後も継続して広報していく必要がある。 ○読書に取り組む契機となりうるように、図書館だよりや館内の展示の充実・工夫を継続していく必要がある。
					2	「普段から読書に親しんだり、NewsPicksや新聞等の社会的なニュース記事を読んだりするように心がけている」生徒の肯定的評価65%以上 図書貸出し数・入館者数の増加				「普段から読書に親しんだり、NewsPicksや新聞等の社会的なニュース記事を読んだりするように心がけている」生徒の肯定的評価は61.7%で目標を達成できなかった。図書の貸出し数は前年比-297冊、入館者数は前年比+1175人だった。			
	活動計画			1	修学旅行・文化祭などの学校行事の中で芸術や文化に触れる機会を設け、芸術・文化について理解を深めるとともに、豊かな情操を養う。	修学旅行は計画通り実施することができた。生徒は文化祭や文化部活動等、芸術や文化に触れる機会を積極的に持とうとしていた。							
				2	読書推進週間を設け、図書館だよりの充実や読書の推進を図る。	図書館だよりの充実や館内の展示の工夫などを通して、読書推進に向けての広報活動を展開することができた。							
	(1)		業務改善と意識改革	評価指標	1	「業務の効率化や会議の縮減等の業務改善に取り組んでいる」教職員の肯定的評価80%以上	教員の肯定的評価は63.4%で、昨年度より8%上昇しているものの、目標は達成できなかった。	B	業務の効率化等を進めているが、新規の業務等もあり、業務縮減には至っていない。日常業務に追われ、縮減されている実感が無い。	○報告・回覧・個別対応で済む会議等を洗い出し、削減するなど業務縮減に努める。 ○各分掌間で連携して行事の精選や見直しを検討するとともに、各分掌内でも、課員個々が抱えている業務量を勘案して業務分担を見直すなど、業務の平準化に努める。 ○学期末考査後の授業や長期休業中の補習の持ち方を検討する。 ○入試対策の指導を組織的・計画的に行うよう更に努める。 ○週末の部活動等についても計画的に時間短縮に努める。			
					2	時間外勤務時間が、年平均で月45時間以内	1月末現在、44.0時間で目標を達成できた。						
				活動計画	1	日常業務の効率化を図るとともに、会議の精選や会議時間の短縮を推進する。	今年度も補習日数の削減など昨年に引き続き業務縮減に努めたが、根本的な改善にはならず、多忙感を払拭するには至らなかった。						
					2	勤務時間を意識した働き方を推進するとともに、週末の部活動等についても計画的に時間短縮に努める。	週末の部活動について時間短縮するための取組ができなかった。推薦入試等に向けての指導の効率化への取組ができなかった。						